



月刊「たくさんのふしぎ」

旭川空港から東京行き旅客機「ADO34便」が発進します。「エアドゥ34便へ、出発経路カグラ2を経て、フライトプランどおりで羽田空港までの飛行を承認します。高度8000フィートまで上昇してください」。

操縦室と飛行場管制との通信、札幌から東京へと引き継がれる航空交通管制部との航空管制の通信…。パイロットとの会話と通信が刻々と展開します。

「空のみち」で紹介しているのは、旭川空港から東京・羽田空港に向かうAIRDO（エアドゥ）旅客機と航空管制とのやり取りのお話。刻一刻と移り変わる通信。そして離陸の瞬間、コックピットの窓から大きく広がる滑走路が視界から離れていきました。主要シーンだけでも27枚もの水彩イラスト画。本の中いっぱい広がる操縦席、空港管制塔、航空交通管制室、機体番号「JA01AD」のB-767型機の迫力の姿。

◇ 4カ月間をかけてAIRDO、東京航空局旭川空港事務所などに入念な取材を重ねました。精緻な絵と文章は、後日管制官ら職員をうならせたそうです。



ティッシュケース(左)とコースターケース(ナラ材)



へその緒&乳歯入れ(ナラ材)

「肩書きも何もない時に『絵本を書きたいと思ってるんです』と取材を申し込んだんです。よく許してくれたなあ」。

長男(10)が

2歳のころから、よく一緒に出掛けていた旭川空港。発着する航空機、青空に駆け上がる光り輝く機体。空への憧れ、そしてその光景を絵本に、と願い、思



千葉 章弘さん  
17区西町

神奈川県藤沢市出身、41歳。関東学院大学卒。木工クラフト作家。大学卒業後生活クラブ生活協同組合神奈川職員を経て、旭川市旭川高等技術専門学校(造形デザイン課)で木工クラフトを学び、その後旭川市内の家具・木工クラフトメーカーで8年間勤務。昨年秋、新工房「リーフスタイル」を立ち上げ独立。児童書籍の出版社、福音館書店発行の月刊誌「たくさんのふしぎ」(変形B4版、44頁)の昨年10月号「空のみち」(文と絵、表紙も、本文40ページ)で児童書作家としてデビュー。

「肩書きも何もない時に『絵本を書きたいと思ってるんです』と取材を申し込んだんです。よく許してくれたなあ」。

4年前、前職の職場でけがをして入院。その時小さなメモ用紙にいっぱい書き溜めていた構想と熱い思いがベッドの中から飛び出しました。学生時代、そして自転車日本一周で憧れとともに訪れた地。スタートは、その後木工を学んだ旭川市内での2年間から始まりました。一歩ずつ時を刻み、つむぎだす作品に共通するのは、家具となることなく使われなかった端材を「最後まで使い切つて命を吹き込む」というものへの思いと温かなまなざし。それはこれから生まれて来る絵本にもきつと受け継がれていきます。

## 今、生き生きと

木工クラフト作家  
千葉 章弘 (ちば あきひろ) さん

『ダイセツタワーへ、エアドゥ34便です。3番スポットから飛行高度3800フィート(約11583メートル)で羽田空港までの飛行承認をお願いします。』。旅客機のコックピットと航空管制官のやり取りが臨場感いっぱい。次々と飛び出していきます。ページをめくるたびに膨らむのは、空への憧れ、そして夢。昨年9月、児童用月刊誌で作家デビューし、木工クラフト作家に児童絵本作家の肩書きが新たに加わりました。